

浜通り平坦地域における 水稻育苗ハウスを用いたトルコギキョウ抑制栽培

福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 水稻育苗・トルコギキョウ栽培体系の実証(南相馬市)

担当者名 安田貴則、江川孝二

I 実証技術の解説

1 要旨

浜通り平坦地域では、水稻育苗後の6月下旬までにトルコギキョウを定植し、頂花に加えて小花の摘蕾処理を行うことで、水稻収穫前の8月下旬～9月上旬に切り花の出荷が可能となる(図1)。

- (1) 水稻育苗後のハウスを用いてトルコギキョウを定植する作型は、生育期が高温になるため、短茎開花が課題となる困難な作型である。
- (2) 頂花のみ摘蕾処理を行い、小花の摘蕾処理を行わなかった結果、平均 55cm の短い切り花であった(表1)。
- (3) 頂花に加えて第一小花及び第二小花の摘蕾処理を行うと、開花時期はやや遅くなるが、切り花長及び上位規格割合が増加し、水稻収穫前の出荷が可能であった(表1、図2)。

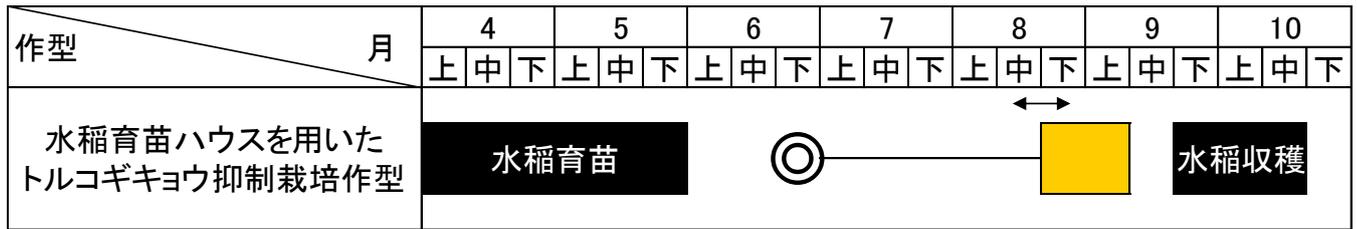
2 期待される効果

- (1) 水稻育苗とトルコギキョウ栽培の組み合わせを行う際の参考になる。
- (2) トルコギキョウの抑制栽培において、切り花長を向上させる技術として期待できる。

3 活用上の留意点

- (1) 水稻育苗後にできるだけ早くトルコギキョウを定植することが重要である。
- (2) 主茎の先端に咲く花を頂花、各側枝に咲く花を順に第一小花、第二小花と呼ぶ。
- (3) 摘蕾処理は、発蕾毎にできるだけ小さい蕾に対して実施することが重要である。
- (4) 小花の摘蕾処理を行う毎に5日程度開花が遅くなるため、計画的な作業管理が必要である。
- (5) 品種はハピネスホワイト(中晩生;購入苗)を用いた。
- (6) 本試験は、南相馬市小高区(標高 4m)で実施した。

II 具体的データ等



◎:トルコギキョウ定植、:トルコギキョウ収穫期間、:摘蕾処理期間

図1 水稻育苗ハウスを用いたトルコギキョウ抑制栽培作型

表1 小花に対する摘蕾処理の違いによるトルコギキョウの開花期及び切り花品質へ

小花に対する摘蕾処理	開花始期 (月/日)	開花盛期 (月/日)	開花終期 (月/日)	切り花長 (cm)	出荷規格割合(%)		
					L	M	S
無摘蕾	8月24日	8月26日	8月30日	55.3 ± 5.0	6.3	6.3	87.5
第一小花摘蕾	8月28日	8月31日	9月5日	60.5 ± 6.0	11.8	29.4	58.8
第一・二小花摘蕾	9月2日	9月5日	9月7日	69.0 ± 4.4	22.2	38.9	38.9

※全て頂花は摘蕾済み。

※定植は、6月22日に行った。

※開花始期:調査茎の10%、盛期:50%、終期:90%を収穫した日。収穫は、2花以上が開花した日。

※切り花長は、平均±標準偏差。

※出荷規格割合は、平成29年度福島県青果物標準出荷規格に準じ、L:70cm以上80cm未満かつ3花3蕾以上、M:60cm以上70cm未満かつ3花3蕾以上、S:50cm以上60cm未満かつ1花1蕾以上。規格外:50cm未満。小数点2桁を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。



図2 摘蕾処理によって切り花長が向上したトルコギキョウ

(上2本:無摘蕾、下2本:第一・二小花摘蕾)

III その他

1 執筆者

安田貴則

2 実施期間

平成30年度

3 主な参考文献・資料

(1) 平成12年度参考となる成果「トルコギキョウの摘蕾による切り花品質への影響」(福島県農業試験場会津支場)